

2020年(令和2年)9月30日(水)第8回例会(通算2882回)

国際ロータリー第2580地区



# 石垣ロータリークラブ週報

会長：森田 安高 副会長：黒島 剛 幹事：東上里 広和 副幹事：吉田 貴紀

今月のロータリーレート 1\$¥106

創立年月日：1962年3月12日

今年度創立60周年



ロータリーは機会の扉を開く

2020-21年度RIテーマ

RI会長：ホルガー・クナーク

地区ガバナー：野生司 義光氏

2020-21年度 ◆クラブテーマ◆ 【心機一転】  
クラブキャッチコピー：島のリズムで伝える平和と奉仕のくるくる(心)

☆地区年次目標☆

「会員増強」

「公共イメージの向上」

「ロータリーデーの開催」



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなの為になるかどうか



## シリーズ：森の名人・戸眞伊さんと森の木

石垣方言：アッカッキ 和名：アカギ

太く、長く伸び、丈夫な木とされたアカギは建築材の中でも桁(ケタ)として、建物の上からの荷重を支える材木として使われてきました。日本本土では移植されたもの“外来種”とされ、固有種を脅かす存在として日本の侵略的外来種ワースト 100 に選ばれています。沖縄では昔からポピュラーな木のひとつとして愛されています。那覇市首里近くのアカギは国の天然記念物にも指定されています。

戸眞伊さんは小さい頃、アカギの実もよく食べた思い出があるそうです。



## 9月16日(水)例会報告

〈司会進行：吉田 貴紀〉

ロータリーソング：手に手つないで 四つのテスト

ソングリーダー：松林 豊

ゲスト：トマイ木工所 戸眞伊 擴 様

メイクアップ：我那覇 宗善 宮良 榮子 小林 昌道

新 賢次 遠藤 正夫

会 員 総 数	47名
出席義務会員	46名
出 席 数	28名
欠 席 数	18名
出 席 率	60.86%
通算出席率(8月は1回)	50.00%

★9月のプログラム 9/30(水)観月会(夜間例会)

★10月のプログラム 10/7(水)米山委員会卓話

例会日 水曜日 12:30~13:30

例会場 アートホテル石垣島(0980)83-3311

事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917

URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>

E-mail [ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp](mailto:ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp)

◆ 会長挨拶：森田安高 ◆



皆さんこんにちは。今日は、東上里幹事の師匠であります戸眞伊さんが卓話をして頂けるということであります。戸眞伊さんには日程の変更等がいろいろとありましたが、今日は25分間の時間でいろんな事を教えて頂けたらと思います。戸眞伊さんのプロフィールに西表島の船浮の出身ということですが、実は私の先代の社長が昔ヤマサマーをしていたという歴史があります。その前は漁師でしたが漁師がイヤで西表の山に10年ぐらい木を切っていたという経緯があります。まだ復帰前にバックパッカーのお客さんがパスポートを持って西表浩司にいたところに、たまたまうちの定期船がとまってそれに乗せて欲しいと言うのでそのお客さんからお金を貰って4、5名が乗船したそうです。山に入ると二週間、山ごもりして山から3、4メートルの枝に切り出してそれを引っ張り出して海に落として、海から船に積み込むということをしていたんですが、人を運んだ時にもらったお金の喜び、山で木を切っている場合じゃないと、木を運ぶよりも人を運んだ方がいいという発想から、復帰一年前に人を運ぶ旅客船を造ろうという事で創業したのが7/17です。復帰一年前ですから来年が50周年を迎えます。アートホテルGMの山下さんのところで式典・祝賀会をお願いしているところでありまして。コロナ禍でも開催いたしますのでよろしくお願ひいたします。実は、先週の理事会で60周年の仮予算を出して承認して頂きました。Slackに上げる予定でしたが、手直しがあってまだ明確に上げられていません。60周年事業として大瀆信泉記念館のトイレの改修事業をしようという事で動いています。大瀆信泉記念館は平成9年に開館しました。その時にロータリーの先輩方がロータリーから3百万の資金協力をして、その後にも50万円を協力したという経緯があります。信泉先生は皆さんもご承知の通り八重山では凄い重鎮であります。その記念館はもう24年ほど経っていてトイレが和式になっているのでそのトイレの改修を記念事業でやろうという話が出て、佐久本商会さんに格安の料金で見積りの予算を立てています。どうしてトイレかと言いますと、仁開さんから教えてもらいましたが、ロータリークラブがシカゴで最初に出来た時に、最初の奉仕活動が公衆トイレだったそうです。1907年ポール・ハリスがシカゴの三代目会長をした時に、デパートやバーにはトイレがあったそうですが、お金がないと使えないというシカゴの街で公衆トイレを造ろうということで、当時のいろんな団体のリーダーを呼んで、市民も巻き込んで無料のトイレを造り市民に絶賛された歴史があります。また、ロータリーの仲間の中で奉仕事業をしようという仲間と懇親でいいという仲間がいたそうです。そこでもめ事になって最終的に仲介に立った人たちがこのままではロータリーがバラバラになってしまうと、それを打開するためにみんなで歌を歌おうというのがきっかけでロータリーソングが始まったそうです。歴史を学んで凄く勉強になりました。60周年記念事業がどうして大瀆信

泉記念館のトイレ改修かということをお話の中で述べたいとお話しさせて頂きました。

◆ 幹事報告：東上里和広 ◆

当クラから支援金をさせて頂いた7月福岡、熊本豪雨支援金の内訳の報告がありました。2700地区の福岡・長崎・佐賀へ2,927,000円、2720地区の熊本・大分へ3,055,000円を今月の14日付けで送金が完了したとの報告を受けております。続いて第7回日台ロータリーの親善会議福岡大会ですが2度にわたり延期し、開催を来年の3月に予定しておりましたが、今後の状況改善の展望が見えない現状を踏まえ中止を決定したとの報告がありました。毎週同じ事をお伝えしているかと思いますが、今後の例会、イベント等の中止、延期などが日々の情勢が変わりますので、事務局に情報を確認の上、適切な行動をお願いしたいと思います。最後に、本日卓話をして頂く戸眞伊さんは私の島材に関する師匠でもあります。毎回、あっと驚くようなお話を聞かせて頂いておりますけれども、本日も待ちに待った戸眞伊さんの卓話という事で、私自身本当に楽しみにしていました。短い時間ではありますが、戸眞伊さんの歴史と八重山の文化をお話し頂けたら嬉しく思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

◆ 委員会・会員からの報告 ◆

プログラム・親睦委員会：大田 次男 委員長

来週は定款による休会です。9/30(水)は夜間例会を開催致します。アートホテル石垣島13Fカプリコンで開催致しますので、参加される方は事務局のほうに出欠の報告をお願い致します。もちろん感染防止を含めてでありますので会席料理で出ます。前日までに人数の把握が必要になりますのでそこを気をつけてお申込み下さい。

◆ ゲスト卓話 ◆

戸眞伊 擴 様 (トマイ木工所)

◆ テーマ ◆

八重山の木について



プロフィール

- 昭和15年11月 竹富町西表船浮にて出生
- 昭和31年6月 田城木工所へ見習工として弟子入り
- 昭和45年 琉球工業連合より優良従業員受賞
- 昭和50年 トマイ木工所開業
- 昭和58年 職業訓練指導員免許取得
- 昭和62年 石垣市制施行40周年記念で内原英郎市長より表彰を受ける
- 平成5年 沖縄県木材加工技術コンクールで最優秀賞受賞
- 平成11年 沖縄の産業まつりで商工観光業賞受賞(林業部門)
- 平成13年 沖縄県知事より沖縄県工芸士認定を受ける
- 平成17年 沖縄県文化協会より表彰を受ける
- 平成19年 沖縄県農林・漁業賞受賞(林業部門)
- 平成22年 沖展木工部門で奨励賞受賞(ハイバックチェア)
- 平成23年 " 沖展賞(総組接象嵌入重箱)
- 平成24年 " 準会員賞(小ダンス)
- " 木工芸部会員に推挙状を受ける
- " " 審査員に推挙
- 平成27年 国土緑化推進機構より森の名手・名人認定
- 平成29年 八重山毎日文化賞正賞受賞
- 令和元年 全国育樹祭沖縄県大会会場にて全国74人の受賞者を代表して玉城デニー知事より賞状を受け取る

今日は私、生まれて初めてこういう場に立って話しをすることで、どのような話しをすればいいのかもの凄く心配

で夜もなかなか寝付けなかったんです。上里さんに卓話をお願いと聞かされた時にはえらい事だと思ったんですが、せっかくの誘いでありますので引き受けました。つたない話しかもかもしれませんが私の話を聞いて下さい。私は、西表島の船浮村という、今では陸の孤島と言われているんですが、昔はもの凄く栄えていた島なんです。船浮で生まれて船浮の山と海を行ったり来たりして育ちました。父が終戦後にマラリアに感染したので、母とばあちゃんは家を守るということで私はばあちゃんに連れられていつも山に海に引っ張って行かれました。山に行って山の木の名前をばあちゃんからいろいろ聞かされそして覚えました。終戦後の復興材料を切り出すために宮古島から山に入る方が船浮村に来ました。製材所を置き発電所もついてももの凄く栄えていた時代、木材を出してきてその木材を見ながら島材の良さ、どういふ木がどのようなどころで使われるかというのいろいろと教えてもらいました。そういう事で木との関わりは幼い頃からあったという事で今になっていますが、私はまさか木工所に入るとは思わなかったんです。私の恩師が昔、田城木工所と取引を木材を出してやっていたんです。そういう関係で田城木工所と相談して君は田城木工所へ行きなさいと先生に言われたもんですから、はいと言いましたが、悩みは木工所という大工仕事でノコも引かないといけない、ノミも使わないといけない、そうなる利き手が違って私は左利きなんです。大変だと思いつつも仕方ないということで田城木工所に弟子入りしましたが、そのあと毎朝、毎晩、左は使わない、常に右とずーっと見習い期間が5カ年ぐらいあるんです。その間は職人の皆さんのあとについて仕事の手伝いをするということで、一生懸命右手を使うという繰り返しを5カ年間でなんとか右手を使えるようになったんです。そのあと5年続いて、タイミングと言いますか、先輩が製作していたタンスがあったんです。その先輩が長い間病気で休みまして、その仕事が前に進まなかったの、親方が君、これを仕上げなさいと言われまして、これは大きな仕事で大変な責任を感じたんですが、なんとか仕上げる事が出来ました。それからは少しずつ仕事をもらいました。昔から西表島で生活して山に行って木を切って薪を拾う、私の人生は木を扱う、木をうんと利用しなさいと運命かなと感じました。そして私は一生、田城木工所で奉仕するというような心でおりました。田城木工所には感謝の気持ちがあったので恩返しするにはこれだけのことをやらないと恩返しは出来ないという気持ちがあったんです。田城木工所には18年間いたんですが、ある日、妻のおじさんが君は独立しなさいと言ってきたんです。私はやりません、一生田城木工所でやると言ったんですが、場所も借りて段取りも済んでいるのでやらないと困ると強制的に言ってきたもんですから仕方なく田城木工所に事情をはなしてお願いしますと言いましたが、いきなりでは困ると一年間猶予をおいて、その一年間は家賃も払ってそれからは独立しました。独立して4、5年ぐらい経って、はた織り事業が復活しているとして市はこの織物事業を進めたわけ。織物を織るときにはた織機がないと作れないということで、はた織機を作りたいと依頼がありました。まずはこういう物を作った事がないので一度は断ったんですが、君しかいないということで何度も役場に言われまして、じゃやりましょうということになりました。その時、石垣えいこ先生という方が八重山の上布を織続け

ていましたから、その先生のところに行ったらはた織機の寸法取りをして作業に入りました。しかし、これだけでは出来ないの、毎日えいこ先生のところへ行き、話を聞き一ヶ月間くらいかけて何とかはた織機を作って納品しました。この織機は少し改良の余地があるなあと考えました。杉の木でしたから、どうしても島材の木を使った方が島の風土にも合致しているというのを思いつきまして、それには島材を加工しなければならない。そうするには山に入らなければいけないので、山に入る皆さんがあの頃はいましたから、そういう方をお願いして木材を切ってきてもらって、製材所に行き島材を使って造り始めました。それが石垣のもちろん沖縄県も一緒ですが、島材の復活の始まりになっているんだと思います。そして家具にも島材を復活しようという事でヤラブ材を中心にしてやりました。そうしているうちに島材を理解して頂く皆さんがいらっしやって、結婚式の時の花嫁道具のタンスや鏡台などもあの頃は結構作りました。その後、復帰して輸入品が入ってきて結婚式の家具も既製品に様変わりして、僕のところはどんどん減っていった最終的には全く無くなりました。それでは食っていけないという事で別の作品を考えようという事で小物や重箱、お皿を作ったりしました。昔はぎりぎりやーといってお盆などを作っている工房があったんですが八重山から消えてしまったんです。そのぎりぎりやーを復活しようということで市の企画で引き物を始めたわけ。その引き物に島材を使って島材の魅力を知ってもらおうということになりました。島材は60~70ぐらいの種類があるんですね。その種類のいろいろな色、強度などをご覧になって理解してもらいたいという気持ちがあったもんですから、木を集めるために役場に行って許可をもらい山に入ってチェーンソー持って切って引き出してくるという作業をずーとしました。65種類の木を集めて作り物をしました。そして展示もしました。沖縄本島の工芸振興センターというところがありまして、そこから要請があり展示しました。昔は工芸指導所といって織物、焼き物、紅型そして木工、そういう支援センターがありましたのでそこに行って展示会をしながら木材の種類の見学会というのやって今ははた織機も島材になって織をしている皆さんからも大変良いという好評を得ています。といひますのは、合板材は使えば使うほど肌が荒れて毛羽立つんです。しかし島材は使えば使うほど滑らかになって表面はツルツルになって糸に優しいんですね。島材の特徴というのは滑らかで色つやがあって毛肌がいい、どこでも誰に与えても島材の良さを感じてくれるだろうと今でも思っています。これからは出来る限りもっとも島材普及に頑張っていきたいなと思っておりますので皆さんも一つご指導ご協力をお願いしたいと思います。木にはいろいろと特徴があります。今日の週報に載っているアカハダの木というのがあります。この木は昔の人は全く使えない木だと言っていました。建材にも使えない、燃やしても燃えないので薪にもならない、もし山火事が起きても他の木はどんどん燃えて無くなりますが、この木だけは燃えずに残ってこの山の番をして見張っているということから「山の番木」という名がついたようです。昔の人の話です。昔の人はいろいろこういった知恵を我々に与えてくれるんです。なので僕は木の特徴を見抜けるんですね。それと木を歌った歌もあります。シマトリネコという木があります。野球のバットにも使われている木で折れない割れない木だと言われてい

ます。夫婦の仲も割れないようにするにはこの木を枕にしましょうという事で、歌にも歌われている沖縄の民謡の御前風があります。結婚式の時にはこの歌詞を歌った方が夫婦間にもいいということで歌っているところもあります。昔は「ウシドウ(おしどり)イヌチギリ、ヒユククイグクル、ジンギイタマクラ」と歌います。ジンギの板枕をしたら夫婦が割れないでいつも良くなるといったふうに歌われています。木を上手く利用して人の輪を作っていこうというのがあります。もう一つはキャンギというイヌマキの話もあります。これはナギという木で八重山ではユカルピトゥヌキャンギと言います。ユカルピトゥとは役人の事です。昔、首里王国から八重山にイヌマキ(高級木)を大量に納品しなさいと八重山に指令が出ました。八重山のヤマサーは山に入って探すけれども、本数が足りなくて悩んだ挙げ句、皆さんで相談してこのナギの木を切って混ぜて送ろう、そうすれば本数も確保出来る。もし万が一ばれたら打ち首も覚悟で結束したそうです。木

をそのまま送ったらすぐにばれます。角材にして送りますので殆ど見分けがつかないんです。それで送ったのが全部OKですということでナギの木がイヌマキになった訳です。ですから八重山ではユカルピトゥが認めたキャンギだよということでユカルピトゥヌキャンギという方言名がついたらしいです。こうして八重山のヤマサーは知恵比べみたいな感じで木を扱っていたらしいです。木にはヤラブとかフクギとかありますが、これらの木には必ず二つ色の濃いのと薄いのがあります。僕は赤白と言っていますが、フクギにも濃いのと薄いのが必ずあります。フクギも織物の染め物に使っていました。上納用の布を染める時は濃い方を使い、一般の平民は白い方を使えという指令があったそうです。フクギの葉っぱを見ればすぐに分かります。葉っぱが小さい方が濃くて大きい葉は薄い。殆どの木に濃いのと薄いのがあります。僕は山から木を取ってきて製材して木を扱っていて60何年もこの仕事をして感じて気付きました。

～例会風景～



バナーのプレゼント

本日のニコニコ

- ☆森田安高氏:戸眞伊様、本日の卓話ありがとうございました。
- ☆仁開一夫氏:橋本先生、誕生日おめでとうございました。
- ☆南波正幸氏:戸眞伊様、今日の卓話ありがとうございました。
- ☆前木繁孝氏:戸眞伊様、本日はありがとうございました。橋本様、バースデーおめでとうございました。
- ☆橋本孝来氏:戸眞伊さん、貴重なお話しありがとうございました。
- ☆大田次男氏:戸眞伊さま、本日は貴重な卓話をありがとうございました！
- ☆東上里和広氏:戸眞伊さん、お忙しい中ありがとうございました。
- ☆今西敦之氏:戸眞伊様、本日の卓話よろしくお願ひ致します。
- ☆吉田貴紀氏:戸眞伊様、卓話ありがとうございました。
- ☆山下 暢氏:戸眞伊さん、卓話ありがとうございました。ロータリー週報の表紙記事もありがとうございました。

◆BOX¥10,000 (累計¥61,000)◆コイン¥2920 (累計¥14,569)合計 ¥75,569

森田安高氏 東上里和広氏 ◆60周年記念基金 ¥2,000 累計¥15,000



米盛 博和氏 7日(月) 上勢頭 保氏 9日(水) 松原 栄松氏 15日(火)  
橋本 孝来氏 16日(水) 松尾 和彦氏 20日(日) 黒島 剛氏 24日(木)

